

2014 年度 年次報告書



子ども図書館建設のための設計ワークショップ 2014 年 6 月

【日本総会】 日時:2015 年 3 月 15 日(日)13:30-15:30
場所:ソーシャルビジネスラボ(SBL)

【フィリピン】 February 18, Wednesday 16:00-18:00
ISIS, Quezon City

特定非営利活動法人ソルト・パヤタス
Salt Payatas Foundation Philippines, Inc.

目次

1. 2014 年度を振り返って	P 2
2. 団体のめざす社会像、使命、事業構成	P 3
3. 組織関係図	P 4
4. 各事業 2014 年活動報告と 2015 年度目標	
(1)子どもエンパワメント事業	P 5
(2)ライフスキル教育プログラム構築事業	P10
(3)女性エンパワメント事業1 パヤタスリカ・アトリエリカ	P11
(4)女性エンパワメント事業2 カシグラハン	P15
(5)現地体験・啓発事業	P16
(6)事務局	P18
5. 2014 年度決算	P19
6. 2015 年度予算	P23
7. 役員・理事	P24

<資料>新聞掲載記事

1. 2014 年度を振り返って

ソルト・パヤタスは 19 名の奨学生支援をもって、1995 年 1 月から活動を開始しました。それ以降、奨学生支援に加え、大人識字教育、栄養不良児給食支援、地域医薬品協同組合運営、パヤタス地区その他地域での台風等自然災害被害及び火災等人災被害救援、マイクロクレジット提供による生計向上支援、2000 年ゴミ山崩壊緊急支援、クロスステッチ製造販売による生計向上支援、パヤタス地区その他地域へのスタディーツアー、パヤタス等現地住民の日本訪問交流事業、日本人学生市民等のパヤタス・カシグラハン地域住民サポート・交流組織との諸共同事業運営、フィリピン日本におけるソルトネットワーク形成事業、等を行ってきました。

ソルト・パヤタスという極めて小さな規模の NPO が 20 年を超え様々な活動を行ってこられたのは、困難な状況にあっても必死に明るく生きようとするパヤタス等の子ども、大人達の生きざま、それに応えようとする日本人学生市民ボランティア、スタッフの人間として誠実に生きたいと願う決意に基づく個人の継続した広がりを見せた活動があったからだと思います。ソルトの活動は、これからも現地住民と日本人との共同活動を大切にしていきます。

2014 年におけるソルト活動の要点は以下となります。

- パヤタスにおける子どもエンパワメント事業(主に図書館運営)の 2015 年 5 月以降での現地組織リカによる運営にむけた諸準備の執行
- カシグラハンにおける JICA・地方自治体・住民団体カイサ・ソルト共同事業としてのライフスキル教育の為にセンター建設・運営の為に基礎準備活動の執行
- クロスステッチによる女性エンパワメント事業組織のパヤタスでの拡充、フィリピン及び日本での販売促進及びネットワーク拡充活動の執行、カシグラハンでの新規収入向上活動開始に向けた準備
- 現地生活体験・スタディーツアーの多様化、住民およびフィリピン人スタッフ主導のプログラムの増加による現地住民活動の活性化と総体としてのツアー活動の拡充の為に諸活動の実施
- パヤタスのゴミ山拡張による住民排除・人権侵害の拡大に抗する住民への支援
- 日本及びフィリピン国内における学生市民ネットワークの維持・形成とそれら団体との共同事業の実施

上記活動の詳細が、以下に報告されております。またそれを受け、2015 年の活動に関し提案しております。ご検討をお願いいたします。また改善の為に率直なご意見ををお願いいたします。

ソルト・パヤタスの活動は、パヤタス、カシグラハン現地住民の為に活動であると共に、より善きフィリピン人と日本人の将来を創出するための共同活動であると考えています。今後はより一層事業の質的向上と諸活動の拡充にむけ、事業の評価と改善を行ってまいります。また、それらに関し、会員及び支援者への報告を充実させて参ります。

皆様の関心とご参加を心よりお願いいたします。

代表 小川博

2. ソルト・パヤタスのめざす社会像、使命、事業構成

ソルトの目指す社会(Vision)

全ての人々が、国籍に関わりなく健康で最低限度の文化的生活を実態として保障され、「差別のない」「貧困のない」「不正な外国勢力の介入のない」「不当な拘束・嫌がらせのない」「戦争のない」「環境汚染のない」公正な社会。

ソルトの使命(Mission)

- ・貧困に苦しむ人々が、自己の能力の発見、向上を通して、自信と希望をもち、生活の向上を果たしていくための具体的支援を行うこと。
- ・貧困・格差の問題に関する理解を深め、公正な社会をめざし地域・職場・学校で活躍する人材を育てるための啓発および研修事業を行うこと。

主な活動

フィリピンマニラ首都圏北東部ケソン市パヤタス地区、リサール州市カシグラハン地区における、次の事業

- ① 子どもエンパワメント事業:小、中、大学生への奨学金支援、補習教育、ライフスキル教育、子ども図書館作り
 - ② 女性エンパワメント事業:手刺繍製品の製作、販売を通じた女性のための収入向上支援
 - ③ 現地体験事業(スタディーツアー)
- その他、災害時の緊急支援、国内での講演活動等

団体のミッション(使命)と事業構成

貧困に苦しむ人々が、自己の能力の発見、向上を通して、自信と希望をもち、生活の向上を果たしていくための具体的な支援を行う。

貧困・格差の問題に関する理解を深め、公正な社会をめざし地域・職場・学校で活躍する人材を育てるための啓発および研修事業を行うこと。

子どもエンパワメント事業

女性エンパワメント事業

現地体験・啓発事業



3. 組織関係図



4. 各事業 2014 年活動報告と 2015 年度目標

(1) 子どもエンパワメント事業(Children Empowerment Program-CEP)

2014 年度

総括

事業終了まで残り 1 年となり、2014 年度は、事業の住民組織への移管に関する活動や議論が進んだ。

パヤタスにおいては、わかば図書館での活動やライフスキルの教育活動の Likha への移管のプロセスについて、複数回に渡って Likha 側と CEP 担当者との間で話し合わせ、2016 年以降の形がほぼ決定した。

パヤタスでゴミ山の拡張に伴う立ち退きが進行しているが、自治体その他からそれに関する公式な情報が出されず、地域住民の居住を脅かし疑心暗鬼にさせている。奨学生の家庭も自発的、または強制立退きの対象となった。わかば図書館および Likha センターへの立ち退きの影響も含め、情報収集と対応にあたらなくてはいけない年だった。

カシグラハン地区では、奨学金支援を受ける家庭の母親たちを中心とした女性グループ「カイサ-KAISA」が誕生し、組織的な活動が活発となった。カイサは、パヤタスにおけるリカのように、将来的に、新しく建設される子ども図書館(ライフスキルトレーニングセンター)の維持管理を行うことを期待されている。

成果

奨学金支援

2014 年度(2014 年 6 月-2015 年 5 月)は、奨学生数 42 名(パヤタス 14 名、カシグラハン 28 名)で始まった。年度中、2 名の新規スポンサーがみつかり、2 名の子どもが新たに支援されることになった。

4 名の奨学生が卒業した。

*B.A.(情報処理 2 年間コース)

→卒業後、4 年コース編入

*B.E.

(情報処理 2 年間コース)

→就職活動中

*C.M.

(金融 4 年生コース)

→就職(契約社員:SM デパートメント)

*M.J.(ハイスクール卒業)

→結婚

6 名が途中退会となった。内訳は、大学 3 名、ハイスクール 3 名。退会の理由は、他団体との二重支援(※ソルトでは二重支援を禁じており、どちらか一方の機会を他の何の支援もない子どもに与えることとしている)、支援ガイドラインの逸脱(成績不良・出席率・意欲低下等)。

現時点(2015 年 2 月 18 日)の奨学生数 内訳

	Payatas	KV
小学生	1	6
ハイスクール	5	14
大学生	5	12
合計	11	32
退会(2015 年 1 月)※	1	0

パヤタス地区では、昨年に続き、受益者間のプログラムに対する積極性の格差が大きくなった。奨学生および保護者のミーティングの平均出席率は 36%であった。※

※消極的になった理由として、マニラ事務局は、ソルト主導によるパヤタスでの教育活動の終了が、参加モチベーションを下げたと説明している。また、Likha がパヤタスでの教育活動を引き継ぐことが住民に説明されたが、具体的に何がなされるのか、どんな恩恵が得られるのかが不明確であるため、参加に懐疑的だという声がある。パヤタスにおいて、住民にとって魅力的で主体性を引き出せる活動を、今後いかにリカが行っていきけるかが課題である。

一方、カシグラハン地区では逆に全体的に積極性が向上しており、平均出席者数は前年度と比べ、保護者では 24 名→26 名、奨学生は 17 名→26 名となった。保護者会で出席率 100%だった母親は、パヤタス、カシグラハンともに 3 名計 6 名であった。



カシグラハン地区 月例保護者会の模様

会議は、保護者、奨学生両方において、共通する問題について話し合い、技能やリーダーシップを身につける機会となっている。欠席者は、その機会を失っている。

4月、5月奨学生の個別報告書が作成され、日本に送られた。

4半期ごとの定期評価が、保護者、奨学生ミーティングで行われた。

達成

四半期毎に、以下のソルト・パヤタス奨学金支援の6つの支援ガイドラインに沿って、評価会議が実施された。

ソルト・パヤタス 奨学金支援ガイドライン

- 1) 団体のビジョン・ミッション、および奨学金支援（子どもエンパワメント事業）の目的を理解していること
- 2) 困窮世帯であること 世帯収入が月5000ペソ以下
- 3) 他の教育支援との二重支給となっていないこと
- 4) 子どもに就学意欲があり、成績基準を満たしていること
- 5) 会議、補習、その他定められた諸活動に出席すること
- 6) プログラムに対し積極的参加の意志が見られること

大学生は、毎日1時間、または週に5時間、ボランティアで他の子どもたちの世話やプログラムの諸活動を担うことが決められ、継続している。

奨学生および保護者自身によるガイドラインに沿

った定期評価が行われることによって、自立性が高くなった。

課題

依然として中途退学の問題が大きい。昨年と比べ2名増加した。パヤタスにおいて教育活動がうまく引き継がれるように、終了までのプロセスを、より詳細に住民と詰める必要がある。

補習活動

小学生とハイスクールの奨学生についてはパヤタス、カシグラハン両地区において、毎日給食付の補習活動を実施し、80%の出席がみられた。成果は成績の向上となって現れた。

2014年の補習は、「学習習慣をつけること」に目的を置き、最低1時間センターに来て、学校の授業の復習や宿題をすることとした。

最初の2学期において、パヤタスでは3人の子どもが100点中83点の成績を修めた。成績優秀者に与えられる報奨金を受け取ったのはパヤタスでは4名、カシグラハンでも前年より1名増え8名となった。高学年が低学年の奨学生の学習を指導するペア制度が行われた。

サンイシドロ地区やマリキナ地区などに、立ち退きや家庭の都合で引っ越した奨学生について、前年度までは補習活動への出席が免除されていたが、2014年度は土曜日だけ出席とした。

学校が2か月休みとなる夏休みの期間、4月23日～5月28日の1か月夏期補習を実施し、19名が参加した。（パヤタス6名、カシグラハン13名）

課題

毎日1時間の補習時間の時間内の活動の質、遅刻、ペア制度で教える側に立つ奨学生のリーダーシップの欠如など課題が多い。目的を再度確認し、少なくとも週に1度、補習活動を継続する。

図書館

利用状況

パヤタスのわかば図書館の 2014 年度利用数のべ人数 5283 名(前年比 102 名増加)

1 日平均 20 名

実利用者は 2132 名となり、昨年の 4028 名より減少する結果となった。※

※減少の理由として、マニラ事務局は主に次の理由を挙げている。

定期的な新刊投入がない(子どもたちの期待に十分こたえきれていない)

- ・新刊が入ったとしても、十分な広報をしていない
- ・読書推進ができる人材、トレーニングの不足

わかば図書館の管理、子どもたちの補習の給食づくり、問題のある子どもたちへの目配りなど、1 名の母親 Laudit さんが担っている。少額の謝礼によるほぼボランティアの活動で、彼女の協力は既に 4 年に渡る。



三木さぬきライオンズクラブからの図書の寄付

ご寄付

2014 年度は、200 冊以上の図書の寄付、1240 本の鉛筆の寄付をいただいた。

その他、2 台のラップトップパソコン、気管支炎・ぜんそく患者のためのネビュライザー、血圧測定器、体温計などの寄付をいただいた。

読み聞かせ活動

幼児、児童への読み聞かせの活動を継続している。センターでの読み聞かせは年間 7 回実施され、

40 名～60 名が集まっている。それ以外に、奨学生たちによる、遠方に住む子どもたちのための野外読み聞かせが行われた。読み聞かせの目的は、子どもたちに読書の楽しみを知ってもらうこと、社会性をつけることにある。次回を楽しみにする幼い子どもたちが出てきている。



パヤタスでの野外読み聞かせの風景



カシグラハン 劇による読み聞かせの風景

課題

読み聞かせの活動が、子どもたちの読書推進にいかに関与しているか、その成果を具体的に測る必要がある。

主体となって活動する奨学生の有無、個人の力量に左右されている。読み聞かせ活動を継続的、安定的に実施していく仕組みづくりが必要である。

ライフスキル教育活動

ワークショップ型のトレーニングに加え、日常のミーティングの場でも問題解決力の向上を意識して行い、年間 63 回の活動を実施した。

主な活動は以下の通り。

ライフスキル教育活動	日付	参加(人)
パーソナリティーディベロップメント	3/22	18
カイサ 組織づくり ビジョン・ミッション設定ワークショップ	3/25	7
プレゼンテーションスキルアップ研修	5/12	17
食事と健康セミナー第2回目	5/14	9
ユースサマーリーダーシップトレーニング	5/27-28	18
性と生殖に関する法律を学ぶセミナー	5/30	20
社会について学ぶセミナー	6/20	18
目標設定とPDCA	8/10	15
国家住宅庁との対話と交渉(居住権の確保)	8/12	30
住宅協同組合に関するセミナー、組合の設立※	9月-10月	約400
Tam 博士による健康生活のすすめセミナー	10/12	9
平和を学ぶ 広島原爆DVDの視聴	10/18	10

達成

ライフスキル教育活動に積極的に参加する奨学生や保護者については、表現するスキル、分析力、社会性の向上などが見られた。

パヤタス、カシグラハン両地域において、以下の組織化が進んだ。

1.カシグラハン地区「カイサ」

以前は保護者会(受益者グループ)であったカイサが、住民組織としての存在感を示すようになった。

2.パヤタス地区「パヤタス、ルパンパガコ住宅協同組合(LPHC)」

立ち退きの問題が進行し居住権が脅かされているパヤタスにおいて、国の機関との連携と、地域での約4か月の働きかけを通じ、発起人32名加入者数400名のパヤタス住宅協同組合が設立された。共同組合は、国家反貧困委員会の管理する、「非正規居住住民のための基金(Informal Settlers Funds-ISF)の住宅ローン申請対象団体として、内務地方自治省(Department of Interior and Local Government -DILG)の認可を受けた。



カシグラハン地区 カイサ主催マラソン大会

課題

今後それぞれ自力で継続発展させていくため、引き続きガイドとモニタリングが必要である。

他地域、他団体との連携(ネットワーキング活動)

※他者との連携、外界とつながることも、ライフスキルの一環として実施

アテネオ大学医学部との連携

アテネオ大学医学部学生のコミュニティー活動の受入先となり、2年目を迎えた。学生たちは、このプログラムを通じ、パヤタス、カシグラハン地域の

子どもたちとリカのため、自分たちのできる活動を見つけ出し、実践することが求められている。また活動のため大学側から予算 45000 ペソが支払われる。

アーティストグループ「98B」との連携

Likhaを通じ縁ができた、アーティストグループ「98B」の申し出を受け、芸術を学びたい奨学生に対し、アートについての講義と、絵画教室が開催され、「98B」の主催するフリーマーケットなどを視察した。



98Bによる奨学生への絵画教室



98B主催のマニラでのバザーを見学
(Likha の出店、プレゼンテーション見学)

その他の地域活動

カシグラハン地区において、地域の教育ニーズを知るため 1000 人調査を実施した。調査は主に、カイサ、大学生の奨学生らが実施した。

2015 年度 目標

子どもエンパワメント事業は、2015 年 5 月をもち終了する。2015 年 6 月～2016 年 5 月の 1 年間は、終了後のモニタリング期間とし、既存の活動は以下のように実施または引き継がれる。

奨学金支援

現在の奨学生については、奨学生および保護者が支援ガイドラインを満たす限り、希望するレベルまで(ハイスクール卒業または大学卒業)支援を継続する。支援期間中は、奨学生および保護者の定例会議は継続する。

2015 年度、途中退会者ゼロを目指す。

補習活動

小学生およびハイスクールの奨学生対象の給食付き補習活動を継続する。ただし、頻度を毎日から週に 1 度とし、引き続き大学生が指導するペア制度を継続する。

図書館

パヤタス- わかば図書館は、2016 年 1 月から、維持管理費用および運営両面において、リカの責任下におかれる。2015 年は、移行期間として、2014 年度リカの売上から生まれた寄付をわかば図書館の運営資金源とし、日常の管理運営を、ソルト・リカの合同委員会で行い、運営主体を徐々にリカに移していく。

カシグラハン - JICAと共に実施する「ライフスキル教育プログラム構築事業」の一環として、新しく子ども図書館を建設する。

読み聞かせの活動は、ライフスキル教育の一環として、両地域において継続していく。

ライフスキル教育活動

「ライフスキル教育プログラム構築事業」において、カシグラハンを拠点に、より地域の子どもの特性に合った、普及性が高く、教育効果の持続するライフスキル教育活動を模索する。構築事業は 2016 年末に完了する。新たなライフスキル教育活動が決まるまでの間、いくつかの教育活動を実験的に実施し、結果を検証し、効果の高いものを継続する。

新規活動が決定するまでの間、2015年度は、パヤタス、カシグラハン両地区において、既存の奨学生および保護者に対し、月に1度の従来のライフスキルセミナー・ワークショップ型の活動を継続する。

(2) ライフスキル教育プログラム構築事業

2014年6月、JICA草の根技術協力(支援型)に事業提案を行い、9月に採択され、12月から約2年間の事業が始まった。今後2016年12月までの約2年間で、場(子ども図書館)づくり、ツールづくり、人材育成を行い、カシグラハンを拠点に、より地域の子どもの特性に合った、普及性が高く、教育効果の持続するライフスキル教育活動を構築する。この事業は、JICA、ソルト、リカ、ロドリゲス町、国家住宅庁とのパートナーシップのもと、研究者、組織マネジメント、設計士ら専門家を交え実施する。

5年後、パヤタスのリカのように、カシグラハンにおいてカイサが新しくできる子ども図書館の運営および教育活動を担うことを目標にしている。事業概要は以下通り。

背景

対象地域はマニラ首都圏の開発や自然災害によって、都市部貧困地区から移転してきた住民のための再定住地である。多くの住民は非正規労働者であり「貧困」がこの地の主要な問題である。

義務教育であるにもかかわらず中等教育の卒業率は48%と低く、それが就職の可能性を下げ、貧困の連鎖を生んでいる。就学継続を妨げるものについて調査した結果、経済的理由に加え「あきらめ」や「自己肯定感の低さ」といった心理的傾向や行動パターンがあきらかとなった。

これを受け、弊団体では2010年より就学支援と日常の様々な問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処するために必要な能力であるライフスキル教育を組み合わせた教育支援を実施し卒業率は33%向上した。

本事業は、貧困地区の子どもたちの心理的特性や傾向に合ったライフスキル教育プログラムを、住民自身が持続的かつ主体的に実施できるようにするため、場・カリキュラム・人材育成制度を整備するものである。貧しく困難の多い環境に生まれたとしても、自身の変わる力、変える力を信じ、周囲と助け合い困難に挑戦して改善や向上を生み出す人材を、貧困地区住民の中により多く増やすことを目指す。

プロジェクト目標

貧困層の子どもたちの特性や傾向に合ったライフスキル教育プログラムが構築される。

対象地域

リサール州ロドリゲス町、サンホセ地区、カシグラハン再定住地

受益者層

(ターゲットグループ) リサール州ロドリゲス町、サンホセ地区、カシグラハン再定住地の小中学生と保護者約2000名、ライフスキル教育トレーナー研修受講者5名

実施期間 2014年12月～2016年12月

期待される成果

- 1.子どもエンパワメントセンターができ、ライフスキル教育の拠点として維持管理されている
- 2.ライフスキル教育プログラムのカリキュラムと教材が整備される
- 3.ライフスキル教育を実施するトレーナーが地域の中で育成される

活動

- 1.建築安全基準を満たしたセンターを整備し、維持管理する
- 2.ライフスキル測定の指標を作成し、ライフスキル教育プログラム実施ガイドラインおよび実施マニュアルを作成する
- 3.ライフスキルトレーナー育成研修計画作成、育成する。

(3) 女性エンパワメント事業 1

パヤタスでの活動 Likha(リカ)



Likha

2000年、ソルトはパヤタスのルパンパンガコ B 地区に住んでいる女性、特に母親達が、家族の生活のために必要な収入を生み出せるように、刺しゅうの仕事による収入向上支援事業を立ち上げた。今の Likha の前身である。

この間、この地域の女性たちは、奨学金の支援を受けたり、Likha のメンバーになったりすることによって、生活を変化させてきた。Likha に参加している女性達は、向上心をもつ事、貧しい中にあっても自分にできるベストを尽くす事を学び、事業を今後もっと発展させたいと思っている。仕事に責任感をもって取組み、仕事から多くを学び、クロスステッチの刺しゅう製品をつくるだけでなく、事業を円滑に合理的に行うための内部システムや手法を改善しつつある。

Likha は 2012 年法人化し、ソルト・パヤタスからの独立の準備を進めて来た。2015 年は、わかば図書館の運営、法人の運営など実務面での引き継ぎを進め、2016 年 1 月から完全に自主運営をする予定である。

Likha のビジョン

子ども達が学ぶことができ、大人が働く誇りと喜びを感じることができ、人々が、公共の福祉のために連携・協力することができる社会

Likha の使命

- 貧困世帯の女性たちが、家族の生活や子ども達の教育のために収入を得る場を提供すること
- 自助自立のための技能を高め、相互協力の意識を団体、地域レベルで高めること
- 価値ある商品の生産、販売活動を通して、生産・流通・販売・購入のプロセスで関わる人たちに幸せを届ける事

総括

2014 年は、国内販売を増やすため、マニラ市内で毎週開かれるサンデーマーケットでの販売を強化した。また、フィリピンで初の展示会を企画、実施し、新しいマーケットの開拓を試みた。2013 年末にデザイン担当が退職したため、新たに Likha メンバーからデザイン担当をパートタイムで雇用し、目下、大井のもとでトレーニング中である。

8 月には、法人化して初めて Likha Pankabuhayang Inc. の年次総会を実施し、理事の選出を行った。総会において、以下の点が決まった。

1. Likha のビジョンとミッション

2. 会員基準

会費 P 250.00/年

ビジョン・ミッションを理解し、その促進に努めていること

年次総会への出席

3. 理事会

Victoria C. Castro (President)

Chifumi Oi (Vice President)

Evelyn Ramirez (Secretary/Treasurer)

Meleanor Abojado

Cresly Laudit

Oraida C. Punay



第 2 回リカ総会

メンバー数の推移

	2013年	2014年
メンバー数(フルタイム)	17	16
刺繍パートタイム	合計 5 パヤタス:2 カシグラハン:2 サンインドロ:1	合計 7 パヤタス:5 カシグラハン:2
縫製パートタイム	パヤタス:1	パヤタス:2

2014年 Likha 主な販売先

顧客	売上ペソ	割合	国内売上	輸出
アトリエリカ(ソルト日本)	694,931.50	32.9%		●
サンデーマーケット	263,125.00	12.5%	●	
サントールの会(フィリピン支援団体)	247,380.00	11.7%	●	
その他バザー出展	221,015.00	10.5%	●	
企業	174,620.00	8.2%	●	
個人	161,806.00	7.7%	●	
Feliez	142,958.00	6.8%		●
EX3	104,002.00	4.9%	●	
販売協力者のご自宅での販売協力	89,040.00	4.2%	●	
展示会	13,230.00	0.6%	●	
TOTAL	2,112,107.50	100%	60.3%	39.7%

2014年度重点施策と結果

* サンデーマーケットの売り上げを全体の 15%にする(2013年は 6.7%)

→2014年のサンデーマーケットの売り上げは全体の 12.5%であった。(出店日数2013年は 26日、2014年は 31日)売り上げ増加のため、販売場所を固定化する事でお客様に認知してもらいやすいようにし、出店日は必ずフェイスブックでアナウンスをした。ディスプレイを目立つように工夫し、販売員二人体制のうち、一人は同じ人になるだけ毎回出店をすることでお客様に親しみを感じてもらい、商品を購入し易くなる環境を作った。その結果、目標値には至らなかったもののサンデーマーケットの売り上げは前年比 175%となった。

* 組織整備(人事、研修システム)

→経営陣不足のため、2013年 12月にアシスタントとしてシェリル パノイを採用したが、4月で辞職。メンバー内ではアシスタントに適した人材は不在。

→商品、生産管理の業務を円滑にできるよう、Likhaのメンバーであったエリザベス アニヤスコを6月にパートタイムヘルパーとして採用した。



エリザベス・アニヤスコさん

→業務マニュアルを作成するが、未完成。
→ビッキー・カストロ、オライダ・プナイ、大井が

PDCA(Plan Do Check Action)サイクルの研修を受講。

* ソルトから Likha への教育支援活動(図書館運営、及びライフスキル・トレーニング)移行準備
→ CEP スタッフと CEP の業務についてシェアをした。(4月～6月 数回のブレインストーミングを行う)

* 売り上げ: 目標 2,200,000～2,300,000 ペソ
→ 2014 年売り上げ実績 2,112,107.50(前年比 105%)
ここ数年、企業からの大口受注が年末にあったが、2014 年はなかったため、売上げに影響し目標額に達しなかった。



2014 年 Likha の変化と進歩

1 月:
Likha の活動を一人でも多くの方に知っていただくことを目的としたステッチ体験ワークショップをマニラ在住の日本人女性を対象に、社会企業レストラン『ユニカセ』にてワークショップを行った。希望定員 15 名のところ、参加者は 14 名だった。

2 月:
フィリピンのアーティストグループ 98B が企画するバザーに初めて出店した。観光地で有名なイントラムロスで行われ、多くのフィリピン人のお客様に商品を紹介する機会を得た。

3 月:
Likha メンバーに家族構成や生活に関するインタビューを行った。
日本人会主催の盆踊りバザーに出店。
NGO バザー実施。

4 月:
より安定した事業にするための組織整備を行う話し合いを開始。Likha の会員制度を見直すためのブレインストーミングを開始。

5 月:
ビクトリア・カストロ、オライダ・プナイ、大井が PDCA サイクルの研修を受講。
Likha メンバーの刺繍スキル向上のため、直刺繍のトレーニングを実施。7 名が参加、また、刺繍以外のスキルを身につけてもらうため、かぎ針のトレーニングも実施した(6名参加)。このかぎ針のトレーニングでは、ブックカバーのブックマークを作る練習を実施。

6 月: エリザベス・アニヤスコをパートタイムヘルパーとして雇用。仕事内容は、主に刺繍糸の整理、布裁断、バザー時の商品準備など。

7 月:
NGO バザー実施。

8 月:
クリスマスカード生産開始。今年のカードは直刺繍のサンタとツリーをモチーフにし、台紙に布を縫い付けるというユニークなものを作成。



関西の学生による Likha・ソルトを応援するキャンペーンイベント「PAKS」のメンバーと、スカイプミーティングを実施。

9 月:
アテネオ大学の医学部の学生、7 名が授業の一環で、パヤタスを訪問。Likha と共同でマーケティング・プロジェクトを実施することを確認。2015 年 2 月よりトレーニングが実施されることが決定。
日本人会主催クラフトバザー出店。

10月:

98B というアーティスト達で作っているグループの支援により、初めての展示会を Escolta, Manila で実施。会期中には、Likha の活動の紹介、ステッチ・ワークショップも行った。



マニラ日本人学校文化祭バザー出店

11月:

日本人会が企画するスポーツフェスタのバザーに出店。ソルトの奨学生5人が自ら作成したクリスマスカードも販売。国際ナショナルスクール主催のチャリティーバザー出店。

12月:

ボランティアの高橋智子さんサポートの下、主に日本人顧客を対象としたクリスマスギフトカタログを作成し、販売を行った。

アトリエリカ(福岡事務局)成果:

・(株)インキューブ西鉄様との通年販売の取引が6月より開始(至現在)

福岡での大手雑貨店インキューブ天神店にピノイタオル、オーガニックハンカチなどを始めとする一通りの Likha 商品が並ぶようになった。支援の為の商品購入をしてくださるお客様ではない、新たな

客層を開拓する一助となっている。



・関西四葉連絡会の(株)ひこばえ様とオーガニックハンカチの企画販売実施。カタログ販売での受注を通じ、より多くのお客様の目に触れる機会を得た。

・展示販売会実施(2回)

福岡(器らくや悠遊 9/4~7)

刺繍体験ワークショップ開催(体験者 11名)

東京(谷中 HAGISO 12/12~14)

カシグラハン子ども図書館建設件寄付キャンペーンも同時開催

課題:

・イベント前後での、広報力不足。イベント前のプレスリリースを含む広報が積極的にできなかったこと、イベント終了後のフォローが十分でないなどの、広報全般の未熟さが課題としてあげられる。

・イベント開催時における収支をみた場合、交通費・宿泊費などが負担となっている。経費を抑えたイベント開催を今後検討していく。

2015年 方針と目標

Likha

2015年 方針:

2016年の自主運営に向けて、ソルトからの人的支援を3分の2に減らす。また安定した組織体制を作るために、業務マニュアルの作成と組織整備を行い、新しいシステムを実施出来るようにする。

フィリピン国内販売額を増加させる。その手段の一つとしてサンデーマーケットでの販売に注力する。

ライフスキルトレーニングをコミュニティの子どもと大人(母親)を対象に実施。
クロスステッチのトレーニング(子ども対象)、食育(子ども、大人対象)を行う。

2015年 目標:

業務マニュアル:6月までに完成

売上目標: 2,250,000 ペソ (内サンデーマーケットの売上げを前年比 130%、売上全体の 15%にする)

* ライフスキルトレーニング: 年間 8 回実施

アトリエ リカ

2015 年は、限られた時間・マンパワーの中で効率よく広報を行える体制づくりを構築する。その方法として、ソルト関東コアメンバーが中心となって関東圏のバザー出店や展示販売会を実施していくことを検討する。また、オーガニックハンカチの縫製を見直すなど、商品そのものの品質向上を目指す。

目標:

- ・展示会1回開催
- ・オンラインショッピングでの売上前年比 10%向上

(4) 女性エンパワメント事業 2

カシグラハンでの新規収入向上事業の開始

カシグラハンにおいて、パヤタスの様に地域に密着した活動モデル(Likha のソルトから独立・自主運営、図書館の運営、コミュニティの子ども達へライフスキルトレーニング実施)を展開するため、新しく子どもの教育機会を増加させるための収入向上事業を開始する。

ビクトリア・カストロがこの新事業の総責任者となる。収入向上事業の内容については、刺しゅうの可能性も視野に入れつつ、現地調査実施後に決定をする。

2015年の主な事業内容

- ・収入向上事業の為の現地調査実施、及び分析
- ・市場トレンド、グッドプラクティス調査実施、及び分析
- ・ビジネスプラン、スケジュール作成



リカセンターに子どもを連れ込むことは禁止していますが、どうしても子どもの面倒を見てくれる人がいない場合に限り、連れ込むことを許可しています。たとえ移動中のバスの中でも子育て中でも針と糸さえあればどこでも出来るのがこの刺繍の仕事の利点です。子どもが寝たら静かに床に寝かせます。敷き布団はないので段ボールを代用しています。目を覚ましたら、振り返って子どもの様子を確認。お母さんは常に子どもを気にしながら仕事をしています。

(5) 現地体験プログラム、啓発事業

事業目標

貧困・格差の問題に関する理解を深め、公正な社会をめざし地域・職場・学校で活躍する人材を育てるための啓発および研修事業を行うこと

2014 年度活動報告

■参加費総額

2,687,596 ペソ 内寄付 : 333,300 ペソ
(日本法人・フィリピン法人合算)

■参加者数: 248 名

■月別参加者数

1月	4	2%
2月	61	24%
3月	30	12%
4月	6	2%
5月	8	3%
6月	8	3%
7月	7	3%
8月	49	20%
9月	43	17%
10月	4	2%
11月	24	10%
12月	4	2%
合計	248	100%

英国 004% 中国 004% 日本 99.2%

■男女比

男性	99	39.9%
女性	131	52.8%
不明	18	7.2%
合計	248	

■参加者数

学生	123	49.5%
社会人	104	41.9%
不明	21	8.4%
合計	248	

■現地体験プログラム・スタディツアーによる地域への効果

1. 収入の増加

現地体験プログラムに参加協力した保護者や奨学生へ収入が生まれる。

2. 能力の向上

クッキング研修、衛生管理研修、プレゼンテーション講習等を受けることによって、栄養、衛生面の知識が増え、スキルが増す。また、参加者からの質問への対応、交流によって、外の考えに触れ、ソーシャルスキルが強化される。

3. 他事業への資金源

参加費の中から、子どもエンパワメント事業に寄付が入る。

4. 心理面

参加者の側でも、家庭訪問や交流によって触発されるケースが見られる。

■ホームステイ

支援者である学生団体 Rits ソルト(立命館大学)や同志社ソルト(同志社大学)が地域の暮らしの様子をより深く知るため、カシグラハンで一泊ホームステイを行った。

■奨学生の活躍

大学に通う奨学生のほとんどが本事業に協力参加し、地域概要や図書館の説明を担った。地域散策の際にガード役として見守ったり、家庭訪問での話合いや質疑応答に進んで参加したりした。

■他 NGO や公共施設との交流

現地体験プログラムでは、パヤタスやカシグラハンの公立学校や保健所を見学させてもらった。スタディツアーでは、LOLA's House(フィリピンで旧日本軍の「慰安婦」にされた被害女性の支援施設)を訪れたり、ボホール島の NGO の協力を得て灌漑施設や地震被災地を見学したりした。

■東日本大震災追悼イベント

スタディツアー期間に、今年もカシグラハン地区で『地域マラソン大会』を開催した。今年のスローガンは“Takbo para sa Kaligtasan, Takbo para sa Kalikasan”（安全のために走ろう、環境のために走ろう）だった。

■住民と振り返り評価

年に2回(4月、10月)、保護者と現地体験プログラム・スタディツアーの評価を行っている。今年も、タガイタイやケソン市記念公園などの屋外で振り返りを行った。住民視点から本事業への改善点が職員に共有された。また、それぞれの役割を再認識したり、住民が参加することで生まれる効果を住民自身が再確認したりする機会となった。今後も意欲的に参加するという意見が多く聞かれた。

■2014年に向上した点

- ・職員、奨学生、保護者のプレゼンテーションスキルが向上した。
- ・時間管理能力が向上した。
- ・奨学生の参加度合いが高まった。

■2015年の目標

- ・フィリピン国内の外国人留学生のボランティアを募り、人材育成を行う。
- ・年2回の地域住民との振り返り評価を継続する。
- ・在比日本人向け現地体験プログラムを実施する。
- ・ネットワーク構築



住民たちとの活動の振り返り



奨学生、同志社ソルトとのスポーツ交流



大幅に増加した社会人の参加:カシグラハンでの仕事体験 シュウマイ売り

(6) 事務局（マニラ事務局／福岡事務局）

マニラ事務局：

フィリピン法人 Salt Payatas Foundation Philippines, Inc.

成果

事務局全体で広報の意識が高まり、週報がソルト日本法人に定期的に届けられる体制ができた。

国内向けにニュースレターを発行した(3月)

日本法人との現地体験事業の清算が年2回、予定通り実施された。(改善)

PDCAL(Plan, Do, Check, Action and Log)の意識がよりスタッフ間で定着した。

現地体験事業からの参加費収入により、自己資金調達率が向上。財政面での現地化が進んだ。フィリピン人事務局長が誕生し、運営面での現地化が進んだ。

課題

文書、画像、会計データのバックアップの徹底

社会保健省認可団体に向け再申請

認定NPO取得申請

職員の能力強化

定期人事評価

2015年主な活動予定

2月 会員総会

4月 子ども図書館建設開始(9月完成予定)

5月 団体設立20周年記念式

6月 子どもエンパワメント事業終了時評価(奨学生への支援は継続)

10月 ライフスキル教育新規活動開始

福岡事務局：

日本法人 特定非営利活動法人ソルト・パヤタス

成果

関東ソルトの活性化(月例ミーティング開催、Likha製品の販売支援)

社会貢献者表彰 受賞

ホームページからのオンライン寄付が可能となった

認定NPO申請に向け準備が進展した

ニュースレター年3回発行

フェイスブック 情報発信の頻度、平均「いいね」数がアップした

税理士事務所と顧問契約を結び、透明性が増した

課題

会員・支援者向けの発信物(ソルト・ニュース／ソルト・レター／ニュースレター)の定期発行

組織診断、組織基盤整備

団体中期方針の作成

業務効率化

認定NPO取得申請

月次予算管理の徹底

2015年主な活動予定

3月:会員総会(東京)

5月:活動報告・交流会(東京)

6月:活動報告・交流会(福岡・関西)

10月:グローバルフェスタ参加予定(東京)

11月:活動報告・交流会(東京・関西)

12月:活動報告・交流会(福岡)

12月:アトリエリカ展示会(未定)

5. 2014 年度決算

平成 26 年度活動 計算書

平成 26 年 1 月 1 日から平成 26 年 12 月 31 日まで

特定非営利活動法人ソルト・パヤタス

科目		金額 (単位: 円)		
I. 経常収益	1. 受取会費	正会員受取会費	2,168,111	2,168,111
	2. 受取寄付金	受取特定目的寄付金	2,026,532	
		受取一般寄付金	1,523,266	3,549,798
	3. 受取助成金等	受取民間助成金	1,001,000	1,001,000
	4. 事業収益	啓発事業収益 (現地体験・スタディツアー)	6,163,229	
		女性収入向上事業収益 (アトリエリカ)	4,284,376	
		受託事業収益	2,883,199	
		講演謝礼	235,901	
		その他事業収入	51,788	13,618,493
	5. その他収益	受取利息	623	623
経常収益計			20,338,025	
II. 経常費用	1. 事業費	(1) 人件費		
		給料手当	2,746,588	
		法定福利費	389,501	
		通勤手当	260,000	
		福利厚生費	12,609	
		人件費計	3,408,698	
		(2) その他経費		
		商品仕入	1,919,843	
		商品棚卸増減	-153,531	
		現地活動経費	7,375,707	
	旅費交通費	2,035,864		
	保険料	132,120		
	支払手数料	410,000		
	郵送運搬費	232,746		
	広告宣伝費	516,890		
	通信費	108,760		
	販促備品	5,708		
	イベント経費	97,413		
	会議費	60,192		
	事務用品消耗品	18,369		
	諸会費	44,500		
	その他	33,101		
	その他経費計	12,837,682		
	事業費計		16,246,380	
	2. 管理費	(1) 人件費		
		役員報酬	2,164,000	
		人件費計	2,164,000	
		(2) その他諸経費		
		地代家賃	542,750	
		消耗品費	232,340	
		水道光熱費	80,656	
		郵送運搬費	38,506	
		支払報酬	204,300	
その他		188,309		
その他経費計		1,286,861		
管理費計			3,450,861	
経常費用計				19,697,241
	当期経常増減額		640,784	
	税引前当期正味財産増減額		640,784	
	法人税、住民税及び事業税		81,000	
	当期正味財産額		559,784	
	前期繰越正味財産額		1,409,584	
	次期繰越正味財産額		1,969,368	

平成 26 年度 会計貸借対照表

平成 26 年 12 月 31 日現在

特定非営利活動法人ソルト・パヤタス

(単位：円)

科目	金額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	3,066,897		
売掛金	1,397,368		
商品	1,438,485		
前払金	213,598		
仮払金	5,000		
流動資産合計		6,121,348	
資産合計			6,121,348
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	453,000		
預り金	12,981		
短期借入金	3,685,999		
流動負債合計		4,151,980	
III 正味財産の部			4,151,980
前期繰越正味財産		1,409,584	
当期正味財産増減額		559,784	
正味財産合計			1,969,368
負債及び正味財産合計			6,121,348

財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO 法人会計基準(2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO 法人会計基準協議会)によっています。

2. 事業別損益の状況

事業別損益の状況は以下の通りです。

(単位：円)

科目	子どもエンパワメント 事業	啓発・研修事業	女性収入向上事業	受託事業	全事業共通	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益								
1. 受取会費	2,168,111					2,168,111		2,168,111
2. 受取寄付金	3,549,798					3,549,798		3,549,798
3. 受取助成金等	1,001,000					1,001,000		1,001,000
4. 講演謝礼	235,901					235,901		235,901
5. 事業収益(※1)		6,163,229	4,227,387	2,883,199		13,273,815		13,273,815
6. その他収益	51,788		6,989			58,777	623	59,400
経常収益計	7,006,598	6,163,229	4,284,376	2,883,199		20,337,402	623	20,338,025
II 経常費用								
(1)事業費 人件費								
給料手当					2,746,588	2,746,588		2,746,588
法定福利等					662,110	662,110		662,110
(2)事業費 その他経費								
商品仕入			1,919,843			1,919,843		1,919,843
商品棚卸増減			-153,531			-153,531		-153,531
現地活動費(※2)	4,481,523	2,894,184				7,375,707		7,375,707
旅費交通費	267,996	110,586	91,324	192,300	1,373,658	2,035,864		2,035,864
保険料		66,400			65,720	132,120		132,120
支払手数料(※3)	329,892	17,205	43,178		19,725	410,000		410,000
郵送運搬荷造運	69,415	1,360	161,971			232,746		232,746
広告宣伝費	21,007	373,800	122,083			516,890		516,890
通信費					108,760	108,760		108,760
販促備品			5,708			5,708		5,708
事務用品消耗品		1,023	17,346			18,359		18,359
諸会費	44,500					44,500		44,500
その他	31,001		1,050	1,050		33,101		33,101
(3)管理費 人件費							2,164,000	2,164,000
役員報酬							2,164,000	2,164,000
(4)管理費 その他経費								
地代家賃							542,750	542,750
消耗品費							232,340	232,340
水道光熱費							80,656	80,656
郵送運搬費							38,506	38,506
支払報酬							204,300	204,300
その他							18,309	18,309
経常費用計	5,369,939	3,464,558	2,241,972	193,350	4,976,561	16,246,380	3,450,861	19,697,241
当期経常増減額								1,969,368

※1 事業収益の女性収入向上事業部分4,277,387円は、日本国内のアトリエリカの売上を表しています。

※2 現地活動経費の啓発・研修事業分4,481,523円には、現地で実施する教育支援活動への寄付として現地法人に支払われた899,910円が含まれています。現地法人はこれを寄付収入としています。

※3 支払手数料の子どもエンパワメント事業分329,892円には、会費・寄付のクレジット決済を導入するための初期登録料210,600円が含まれています。

3. 借入金の増減内訳

(単位：円)

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
短期借入金(役員借入金)	4,235,558		549,559	3,685,999
合計	4,235,558	0	549,559	3,685,999

平成26年度 財産目録

平成26年12月31日現在

特定非営利活動法人ソルト・パヤタス

(単位：円)

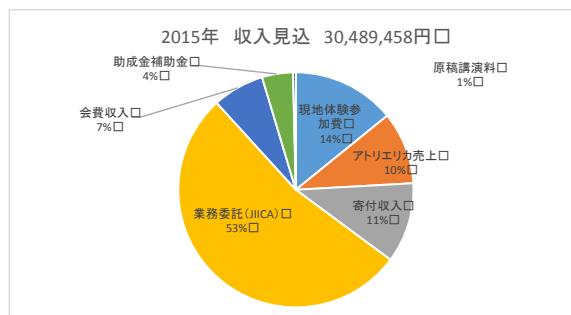
科目	金額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	65,250		
福岡銀行	595,096		
西日本シティ銀行	1,440,106		
ゆうちょ銀行	909,608		
三菱東京UFJ銀行	56,837		
売掛金	1,397,368		
棚卸資産	1,438,485		
前払金	213,598		
仮払金	5,000		
流動資産合計		6,121,348	
2 固定資産			
	0		
固定資産合計		0	
資産合計			6,121,348
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	453,000		
預り金	12,981		
短期借入金	3,685,999		
流動負債合計		4,151,980	
2 固定負債			
	0		
固定負債合計		0	
負債合計			4,151,980
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		1,409,584	
当期正味財産増減額		559,784	
正味財産合計			1,969,368
負債及び正味財産合計			6,121,348
正味財産合計			1,969,368

6. 2015 年度予算

2015年度 ソルト・パヤタス 予算

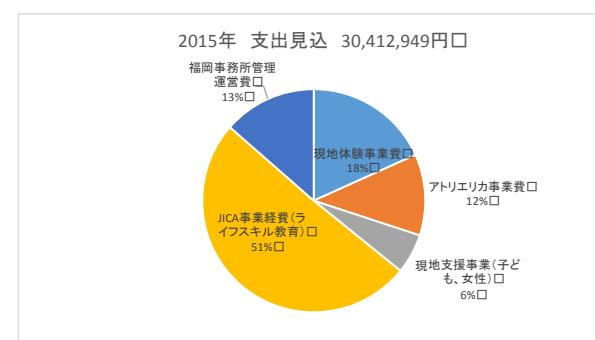
収入の部

現地体験参加費	4,314,260	14.2%
アトリエリカ売上	3,034,738	10.0%
寄付収入	3,361,559	11.0%
業務委託(JICA)	16,200,000	53.1%
会費収入	2,160,950	7.1%
助成金補助金	1,300,000	4.3%
原稿講演料	117,951	0.4%
合計	30,489,458	100.0%



支出の部

現地体験事業費	5,549,014	18.2%
アトリエリカ事業費	3,585,735	11.8%
現地支援事業(子ども、女性)	1,760,000	5.8%
JICA事業経費(ライフスキル教育)	15,400,000	50.6%
福岡事務所管理運営費	4,118,200	13.5%
合計	30,412,949	100.0%



当期収支差額

76,509

7. 2015 年度事務局職員

フィリピン法人

(Salt Payatas Foundation Philippines, Inc.)

Jocelyn Romero -Executive Director 事務局長

Victroria Castro

Carmalita Morante

Nesita Dumitita

Catherine Mendoza

2015 年度理事

小川恵美子- President 会長

Joel Gammat

Linalu Rivera

Victoria Castro

大井知文

小早川遥平

※石川雅国氏退任

日本法人

(特定非営利活動法人ソルト・パヤタス)

2015 年度事務局職員

小川恵美子 事務局長:フィリピン駐在

坂元薫 副事務局長:福岡

大井知文:フィリピン駐在

田村愛弥:フィリピン駐在

丹羽真奈美(インターン):福岡・フィリピン

2015 年度理事

小川博-会長

大井知文

小早川遥平

井上広之

間宮菜々子

小川恵美子

退任 石川雅国、福山茂和

新就任 間宮菜々子(元立命館大学トムソーヤ)、

井上広之(元インターン)

監事 榎本正樹

子どもにゴミ拾い労働させない

粕屋町に事務局を置く非政府組織（NGO）「ソルト・バヤタス」（小川恵美子事務局長）の支援を受けて、フィリピン・ケソン市バヤタス地区の貧困地域で刺しゅう製品作りに取り組む母親グループのうち2人が来日し、福岡市で製品や活動の紹介をした。

粕屋NGOが支援 フィリピン団体「脱貧困」の活動報告



刺しゅう製品を手にするオライダ・ブナイさん（左）とロレッタ・ラクワンさん

福岡市

2人はオライダ・ブナイさん（31）とロレッタ・ラクワンさん（28）。タオルやハンカチなどの刺しゅう製品を作るグループ「リードリカリ」の中心メンバーとして活動する。破片で足を切ったことがある。

ソルト・バヤタスは199

る

地区には広大なごみ捨て場がある。子どもを含めて多くが、授業場で金魚片などを拾い、廃品回収業者に売って生活する。2人も危険で、不衛生なごみ拾いの経験があり、オライダさんはトタンの破片で足を切ったことがある。5年、企業や官公庁のフィリピン駐在員の妻たちが結成した子どもたちに学費を贈るほか、母親たちの収入源として刺しゅうを指導し、製品の販売をしてきた。

4児の母親でもあるロレッタさんは、刺しゅうの収入で再入学した高校を卒業。3人の子がいるオライダさんは「地域の子どもたちに、もうゴミ拾いをさせたくない」と話した。

ソルト・バヤタスは、リカのメンバー訪問など「春の現地体験プログラム」の参加者を募集。期間延長日（3月4日）事務局（090-9420-0300）

かぞく百景 I

紙面についてのご意見、感想
をお寄せください。メール、フ
ァクスで受け付けます。郵送の
場合は〒810-0811（西日本新聞）
西日本新聞社生活情報部へ

生活情報部 FAX 092 (771) 9055 メール seikatsu@nishi-nippon.co.jp

「ソルト」は、はるかに
長い歴史があり、食物の
スパイス、調味料とあきらめ
の調味料として使われてきた
「ソルト」は、この「ソルト」
の調味料として使われてきた
「ソルト」は、この「ソルト」
の調味料として使われてきた
「ソルト」は、この「ソルト」
の調味料として使われてきた

自由帳



「ソルト」は、はるかに
長い歴史があり、食物の
スパイス、調味料とあきらめ
の調味料として使われてきた
「ソルト」は、この「ソルト」
の調味料として使われてきた
「ソルト」は、この「ソルト」
の調味料として使われてきた

ファイリビンの教育支援 貧困の連鎖を断ち切る

「ソルト」は、はるかに
長い歴史があり、食物の
スパイス、調味料とあきらめ
の調味料として使われてきた
「ソルト」は、この「ソルト」
の調味料として使われてきた
「ソルト」は、この「ソルト」
の調味料として使われてきた

お問い合わせ先
〒810-0811 西日本新聞社生活情報部
〒810-0811 西日本新聞社生活情報部
〒810-0811 西日本新聞社生活情報部

平成 26 年度社会貢献者表彰受賞しました(2014 年 12 月 1 日)



社会貢献者表彰とは

社会貢献者表彰は、人びとや社会のためにつくされた方を表彰し、日本財団賞を贈るものです。社会貢献者は、広く社会の各分野において、社会と人々の安寧と幸福のために尽くされ、顕著な功績を挙げながら報われる機会の少なかった方々を対象としています。

表彰式典

現在、表彰の対象となる功績は、緊急時の人命救助、社会福祉の増進や青少年の育成などへの多年にわたる功労、国際協力、海の環境保護と安全保持などです。

表彰は年 1 回行われます。候補者は、自薦他薦を問わず広く一般に公募され、年齢・職業・性別・信条・国籍などによる差別はありません。

学識経験者で構成される表彰選考委員会が、寄せられた推薦の功績内容を審査のうえ受賞者を選考します。選考委員会の答申結果に基づき、会長は受賞者を決定し理事会へ報告します。

社会貢献者表彰事業は、モーターボートレース公益資金による日本財団の助成金の交付を受けて実施しております。

(公益財団法人社会貢献支援財団 HP より抜)

このような賞をいただきましたのも皆様方からの長年にわたるご支援、ご指導、ご参加のおかげと、喜びと感謝の気持ちをかみしめております。様々な形で、直接的、間接的に関わり応援して下さった皆様と受賞の喜びを分かち合わせていただきたいと存じます。これを一つの励みとし、今後更に各事業の質を高めるべく、日比スタッフ一同、日々の活動に取り組んでまいります。